

山形の自然を活かした地方創生

～ユネスコ食文化創造都市認定に～

私の正月は大晦日の出羽三山神社の松例祭が、この17年新たな年を迎える恒例行事です。松例祭は2名の羽黒山伏が五穀に魂を込める冬の峰百日行のクライマックス。その最後の昇神祭にはコメ、ムギなどの五穀が大地に蒔かれます。庄内の農産物にはまさに出羽三山の祈りが込められていると毎年実感します。

昨年の12月、鶴岡はユネスコの食文化創造都市に、国内で初めて認定されました。出羽三山とのつながりをもった食文化を継承してきた鶴岡市民の日常が高く評価されたのだと思います。

私が一つ残念に思うのは、「これに地下水100%のおいしい水道水があれば、もっと評価が高まつたのに」ということです。美味しいご飯も良いコメと水が決め手です。鶴岡の食文化を支えてきたのは豊かな自然に育まれた農作物と共に、月山一赤川扇状地の良質の地下水であることに違いないからです。

人口減少、地方消滅が叫ばれる中での地方創生。この時代に私が最も大切にすべきことは、鶴岡・山形にしかない自然や伝統文化などの価値や魅力を絶対に失ってはならないという事であると考えます。なぜならそれが、今後の世界を相手にした観光(=感幸)立県を目指す上で、観光客がその地を訪れ、また、都市生活者の移住を促す必然性だからです。

自先の経済優先で自然を失えば、地域の価値そのものを失うことになります。鶴岡、山形の経済は自然資本が支えているからです。今こそ、鶴岡・山形ならではの水や自然の力、伝統文化を活かした地域経営(自然資本経営)が必要な時代と思うのです。

全国豊かな海づくり大会のシンボル「県魚サクラマス」

～サクラマスの重要な産卵場所 最上小国川を守ろう～

2017年10月、庄内を会場に「全国豊かな海づくり大会」が開かれます。「森と川から 海へつなぐ いのちのリレー」がテーマとなり、サクラマスはそのシンボルになっています。自然が豊かといわれる山形県ですが、最上川におけるサクラマスの漁獲量は1977年の20トンをピークに、ここ数年は1トン前後と低迷し、8年前、国の準絶滅危惧種に指定されています。

河口から最上川を通じ上流部までの100キロにわたり、ダムのない小国川は、サクラマスの重要な産卵場所です。今、その川に「最上小国川ダム」の建設が進められようとしています。アユ研究の権威、川那部浩也先生ら生態学者から、「穴あきダムでも環境を悪化させ、アユやサクラマスに影響を与える」河川工学者から「ダムによらない治水は可能」と意見書が提出され、草島は12月県議会で「最新の科学的知見を排除し続けるのか?」「もし清流環境が失われたら、知事は責任とれるのか?」と質問。

吉村知事は「できる限り参考にしながら、しっかりと将来に向けて反映して取り組んでいく」と回答。

県魚に指定され、庄内の春を告げる食文化でもあるサクラマスを守っていくには、ダムの建設を見直し、森・里・川・海の連環を維持、再生することこそ必要です。時代は変わっているのです。



産卵するサクラマス

草島進一 県政報告会

2月14日 時間 13:30
土曜日 16:30

場所 マリカ市民ホール JR鶴岡駅前マリカ西館3F

佐高 信 先生、菅野 芳秀 氏をお迎えして
憲法改正問題、TPPや農業問題、原発、ダムなど
課題山積の政治を語っていただきます。
皆様お誘い合わせの上、どうぞお越しください。



菅野 芳秀 | かんの よしひで



佐高 信 | さたか まこと

TPPに反対する人々の運動 共同代表
置賜自給圏推進機構常任理事
長井レインボープラン市民市場虹の駅 理事長

評論家 週刊金曜日編集委員
「原発文化人50人斬り」
「この人たちの日本国憲法」など、著書多数

入場無料
当日入場も可

メール申込は office.kusajima@gmail.com
FAX申込は FAX 0235-26-0038
お問い合わせ TEL 0235-28-3338(10時~16時)

山形県議会議員

パドル vol.8

草島進一議会報告

ホームページ <http://www.kusajima.org> メール s.kusajima@gmail.com

持続可能な鶴岡・山形へ 「想定外は無責任」



2014.9.10 広島市にて被災地を視察。



多くの犠牲がでた安佐南区の現場



土砂に呑み込まれた県営住宅

3.11の東日本大震災から3年10ヶ月。東京電力福島第一原子力発電所でおきた原発事故、津波災害。あの時、頻繁に使われたのが「想定外」という言葉でした。

昨年、県内でも200ミリを超える豪雨があり、南陽市では2年連続で大規模な水害がおき、広島市では土砂災害によって74名の命が失われました。

更に言えば、行政が行政にとって都合の悪い科学を排除し、「安全神話」(=想定)をつくりあげる姿勢は絶対に許されません。見解が分かれる問題では正反双方の科学的知見を出し切って徹底的な論議を尽くすことが大事です。地球温暖化などによる異常気象で、これからも私たちが予想できないような大きな災害や事件事故がおきる可能性もあります。

私たちは、こうした想定を超える事態に対処するためにも、行政の縦割りを超えて、ハード、ソフト、官民超えた智恵、マンパワーを総動員し、新しい対策を徹底議論してつくりあげなければならない時に来ていると思います。

真に「いのちを守る」持続可能な地域づくりに向けて、更に一步前進の一年にしたいと思います。

に進化させるかを念頭に行動してきました。

県議会議員になつて4年。様々な問題解決に向けて、心ある皆様の応援のおかげで、これまで活動することができます。

「神戸」の志を胸に、常に困難や問題の現場に立ち、市民のネットワークを活かして徹底的に議論し、山形の豊かな自然を活かした地域創生など、問題解決の新たなモデルを創り出すことに邁進して参ります。「動けば変わる」今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



神戸元気村 副代表時代(当時29才)